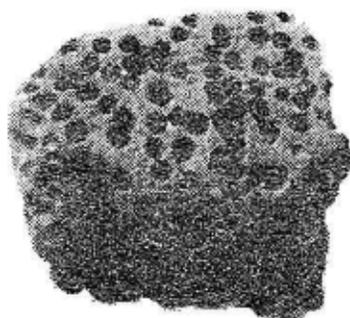


## 岩にあなをあける動物たち

### 海べの岩の丸いあな

夏休みには海釣りや海水浴に出かける方も多いと思います。海へにはたくさん岩や石が転がっていますが、その中に直径5ミリくらいから1センチあまりあるものまで、さまざまなあながあいていることがあります。時にはまるでハチの巣のようにびっしりとあながあいていることがあります。いったいこれらのあなはどのようにしてできたものなのでしょうか。岩石ができたときのあなののでしょうか、それとも波の作用でできたものなのでしょうか。



あなのあいた岩

### あなをあける貝

泥岩や石灰岩などの柔らかい石にあいたあなをよく見ると、中に白っぽい貝や茶色っぽい貝がいたり、貝が死んでしまっても、それらの貝がらが残っていたりすることがあります。岩にあなをあける第1の犯人は二まい貝です。富山湾や能登半島でよく見られる岩にあなをあける貝には大きく分けて2つの仲間があります。一つは茶色っぽい貝のイシマテです。イシマテは体から岩の成分を溶かす酸(さん)を出して、岩を掘っていきます。



イシマテ

もう一つは白く、殻の表面に模様のある、ニオガイやカモメガイの仲間です。これらの貝は2枚の殻を開いたり閉じたりしながら、また、体を回しながら、岩にあなをあけていきます。



カモメガイ



ニオガイ

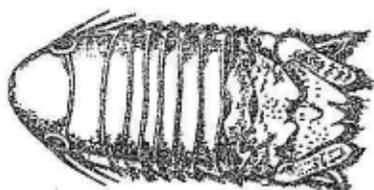


ニオガイモドキ

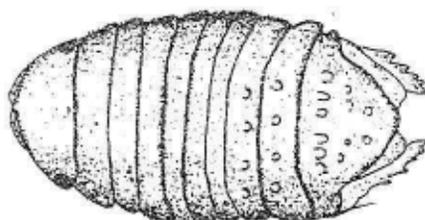
### あなをあける虫

もう一つの犯人は虫です。虫と言っても昆虫ではなく甲殻類のコツブムシの仲間です。コツブムシはダンゴムシやワラジムシに近い仲間で、岩に少しずつあなをあけ、その中にすんでいます。

富山湾にいる岩にあなをあけるコツブムシとしては、ニホンコツブムシ（別名をウミセミともいう）やナナツバコツブムシなどが知られています。また、最近富山市科学文化センターの研究で和歌山県の海岸の岩の中からイワホリコツブムシという新種も発見されています。



ニホンコツブムシ



イワホリコツブムシ

### あなの同居人

あなはさまざまな生物にとって安全なすみかです。ちゃっかり、いそろうするものいます。小さなカニやゴカイなどがいることがあります。海へでこのような岩を見つけ、中の生き物を調べてみましょう。（布村昇）



## 富山市科学文化センター

〒939 富山市西中野町1-8-31

TEL (0764) 91-2123 (代表)

平成6年8月1日